

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:令和6年2月19日

事業所名 まなび ふたば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			職員に急な欠勤が発生すると十分な療育が出来ない場合がある 一体調管理を万全に行うとともに、他事業所と協力して十分な職員数を確保しています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		児童1名あたり1座席、学習スペースを確保している。体の大きさに合った椅子を用意している。遊びのスペースにはマットを敷いており、学習と余暇の環境が分かるようにしている。 リトム、水筒置き場を明確にしたり、帰宅時間目安を時計の針と同じ色にして記載している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		整理整頓を心掛けている 毎日アルコール消毒等を行っています。	PCの充電器で利用者がつまづく恐れがあるため、充電しながらPCを使用するときは壁側のデスクを使う方が良いと思う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		支援計画をいつでも見られるように利用者のファイルに教材とともに挟んでいる。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		毎年、保護者と職員それぞれに対し評価表をつけていただいている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		毎年、保護者と職員それぞれに対し評価表をつけていただいている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>			第三者による外部評価は受けることができていない。 →他社の事業者や相談支援専門員から評価をいただく機会があります。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		個々でも療育関係の書物を購入し自己研鑽している 事業所内外の研修機会を月1回以上確保している。 社内の研修以外にも、研修動画等で学ぶ機会がある。 毎月研修を行って職員同士で勉強を行っています。	動画以外に実際に研修先に行くことで動画では得ることができない情報を得ることが出来ると思います。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		教材を定期的に見直している	今のままで今後も行っていくと良いと思います。現時点では、特にありません。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		必要に応じて、知能検査や発達検査、適応行動検査を実施している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		教材を定期的に見直している	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		アルバイトスタッフでも支援についての意見を簡単に述べられる。	全体ミーティングの内容をアルバイトスタッフにもLINE等で共有しても良いと思う。→議事録を作成し、決定事項を共有します。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		教材を定期的に見直している	マンネリ化しないように教材、教具を見直す
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		毎朝ミーティングをし、前日にあったことやその日の支援内容を職員同士で確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		相談支援事業所や保育所・幼稚園、小学校と都度連携を図っている。必要に応じて関係機関と情報共有している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援事業所や保育所・幼稚園、小学校と都度連携を図っている。必要に応じて関係機関と情報共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相談支援事業所や保育所・幼稚園、小学校と都度連携を図っている。必要に応じて関係機関と情報共有している。訪問支援等で学校教員と直に話をし、連携している。	学校によっては、直接担任の先生と会話をする機会があまりない為、情報共有が今後増えていけると良いと思います。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に出来るだけお話しし、近況を把握するようにしている 送迎者に利用者の様子を簡単に共有できるよう、リトムの事業所控えを使用している。	排泄介助の家と事業所のやり方が違うのか、利用者が戸惑うことがまれにある。 →共通理解に努めます
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		マイナスのことだけを伝えるのではなく、出来ているところを誉めて良いところを伸ばす伝え方をしています。	ペアレント・トレーニングは、グループでは実施できていない。保護者会などの機会を活用する。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会が開催できなかった。保護者会など、保護者への相談援助の機会を積極的に設ける。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		LINEを使う事により より早く確実な連絡が取れている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		LINEで記念写真を送ったり、支援の様子を伝えたりしている。ホームページでブログを更新している。毎月イベント予定表を配布しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		新事業所オープンに伴い、現事業所に加えて新事業所を紹介することも行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の方々との交流を増やす(子ども食堂、買い物、消防署、大阪メトロ、大阪天満宮など。)
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		イベントで定期的に非常時対応を取り扱っている。	緊急時の対応が簡潔にしか保護者に伝えられていないため、まとまった形で伝える準備が必要。 ハザードマップ等いざというときに役立つものを目につくところに掲示しても良いと思う。 →防災マップを掲示しております。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災訓練を季節ごとに1回以上行っている。実際の避難ルートを確認している。年3回以上避難訓練含め防災に関する勉強をイベントや長期休みを利用し行っています。	非常口が一か所しかないので脱出経路の確保 4月から入学される一年生には、幼稚園や保育園の時のような防災の勉強ではなく、小学生向けの防災の勉強を行う必要があります。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		定期的な研修で周知出来ている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。